東京新聞
2013年（平成25年）6月28日（金曜日）　11版　4

東北復興日記 46

いわきで「オンパク」再び

有限会社木紅木（きくもく）オーガニック企画マネージャー
菅野友美さん

「オンパク」をご存じでしょうか？「温泉泊覧会」の略で、大分県別府温泉で二〇〇一年に始まりました。いわき市でも温泉旅館の経営者や住民らが集まり、住民主体の楽しい地域おこしとして〇八年から「いわきフラオンパク」が開催されるようになりました。

一一年の四回目は、開催期間中に東日本大震災が発生し、やむなく中止となりました。次年度も開催が危ぶまれましたが、全国のオンパク仲間の励ましもあり、「今こそ、この福島で地域の宝を見つけ、いわきの輝きを取り戻し、その魅力を伝えよう！」と開催することができました。今年は二十三日から始まりました＝写真。いわきに避難されている方々にも、参加いただき、いわきをもっと知り、もっと仲良くなれるきっかけづくりを目指しています。

「いわきフラオンパク」には「いわきおてんとSUN」のメンバーも深くかかわっています。NPO法人「ふようど2100」理事長の里見喜生さんは実行委員長です。七月二日開催の「震災から二年の今を巡るスタディツアー」ではナビゲーターを務めます。防災やエネルギー、コミュニティーのあり方について学ぶプログラムです。

また、同じくメンバーの島村守彦さんは「いわき市民発電所見学と森のランチ」、市民参加で造った太陽光発電所を見学し、美しい森の中で理想の未来を語り合うプログラムを行います。

私も、昨年好評だった、『オーガニックでバラを育ててみよう』を行います。無農薬でバラを元気に育て楽しむものです。天然酵母のパンと紅茶・有機野菜を堪能しながら、楽しいバラ談議のひとときを過ごしたいと思っています。

今年は市内にとどまらず、二本松市、田村市と合わせて全四十プログラムが実施予定です。いわきで皆さまのお越しをお待ちいたしております。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。